

知的障害教科「生活科（小学部）」と 通常教育学習指導要領の連続性の検討Ⅱ

○森澤亮介（筑波大学附属大塚特別支援学校） 本間貴子（国士舘大学） 今島陽平（茨城県立伊奈特別支援学校） 米田宏樹（筑波大学人間系）
KEY WORDS: 学習指導要領, 生活科, 通常教育との連続性

I. 目的

平成 29～31 年の学習指導要領改訂において中央教育審議会答申では通常の小学校等の各学校の段階全ての教科等において育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき各教科の目標や内容が整理されたことを踏まえ、知的障害特別支援学校学習指導要領の各教科等の目標や内容を小学校等の各教科等の目標や内容との連続性・関連性を整理することが必要であるとされている（文部科学省，平成 30 年，特別支援学校教育要領・学習指導要領解説）。

本研究は、知的障害特別支援学校学習指導要領（以下；知的障害学習指導要領）の小学部 1 段階から 3 段階に設けられている教科「生活科」（以下；知的障害生活科）の内容を通常教育小学校学習指導要領（以下；小学校学習指導要領）との関連から分析した。研究Ⅰに続き本稿（研究Ⅱ）ではカ役割、キ手伝い・仕事、ク金銭の扱い、ケきまり、コ社会の仕組みと公共施設、サ生命・自然、シものの仕組みと働きの分析結果を報告する（研究Ⅰではア～オ）。

II. 方法

分析の資料は、平成 29～30 年告示の「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」ならびに解説、「小学校学習指導要領」ならびに解説である。知的障害生活科の構成内容のうちカ役割、キ手伝い・仕事、ク金銭の扱い、ケきまり、コ社会の仕組みと公共施設、サ生命・自然、シものの仕組みと働きについて、通常教育の生活科・家庭科・体育科・社会科・理科・特別活動との関連性を検討した。さらに、マトリックス表（試案）を作成し、連続性・関連性の構造を把握し、知的障害教育において連続性を説明する上で生じる課題を考察した。中点（・）で区切られているものや複数の文言が含まれている表題については文言を分割し一部でも含まれているものについて含まれているとした。一部でも含まれる場合は、文言の有無・共通性があるとして示した。指導目的と指導内容の共通点・相違点については筆者ら 4 名で検討した。

III. 結果

知的障害生活科の内容にカ～シの項目について、小学校学習指導要領の第 2 章各教科～第 6 章特別活動と照らし合わせ、共通する文言の有無・指導目的・内容の共通性について検討した。

【Table マトリックス表】

	カ役割	キ手伝い・仕事	ク金銭の扱い	ケきまり	コ社会の仕組みと公共施設	サ生命・自然	シものの仕組みと働き
特別活動	1	1	1	1	2	1	1
体育	2			1		1	1
家庭	1	1	1			1	1
生活	1	2		2	1	1	1
社会	1	1		1	1	1	1
理科				1		1	1
道徳	1	1	1	1		1	
1…学習指導要領に同じ文言がある 2…解説に同じ文言がある							
…指導目的・指導内容に共通点がある							

カ役割；知的障害生活科の役割には、役割の理解に加え

て集団への参加や集団における役割の遂行も目標に含まれている。小学校学習指導要領では、生活科だけでなく、特別活動・体育・道徳において確認できた。特別活動では、「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること」とある。道徳では勤労・公共の精神を身につけるために役割を果たすことが求められている。

キ手伝い・仕事；知的障害生活科では手伝いや仕事をしようとする、手伝いや仕事をするための知識・技能を身につけることが示されているが、小学校学習指導要領では家庭科や道徳にその内容が含まれている。

ク金銭の扱い；知的障害生活科では金銭を知る、価値が分かるなどが内容として取り上げられていることに対して小学校学習指導要領ではその内容は家庭科、道徳に含まれている。

ケきまり；知的障害生活科ではきまりやマナーが分かり守ることや身につけることが目標であることに対して、小学校生活科ではきまりという文言は使用されていない、しかし解説まで確認すると生活科の目標にある生活上必要な習慣にその内容が含まれているとされている。

コ社会の仕組みと公共施設；取り扱う内容についても共通点が多い。小学校学習指導要領生活科における、「それらがみんなのためや安全な学校生活のためにあることの意味を見いだすこと」については知的障害生活科では触れられておらず、施設・公共交通機関のより具体的な利用方法が指導内容として取り上げられている。

サ生命・自然；取り扱う内容について、動植物の飼育や季節の行事など児童にとって身近で具体的な内容について共通点が多い。

シものの仕組みと働き；「物と重さ」と「風やゴムの力と働き」については、小学校学習指導要領理科で取り扱われる内容である。しかし知的障害生活科の解説では重さなどを感覚的に知る・経験する・視覚的にわかりやすくするなどの工夫が求められている。

IV. 考察

今回は知的障害教科「生活」の成り立ちと関係の深い小学校学習指導要領の教科等に絞って整理を行った。

知的障害教科「生活」と小学校生活科についてカ役割、コ社会の仕組みと公共施設、サ生命・自然の指導について共通性を見いだすことができた。しかしキ手伝い・仕事、ケきまりなど基本的な技能の獲得が知的障害教科「生活」でなければ扱えない知的障害独自の指導目標・内容であることが示唆された。今後、より多くの教科の分析を通して指導目標内容の共通点だけでなく、相違点についても分析を行い連続性・関連性を整理・検討する。

（文献）平成 29 年～30 年公刊の各学習指導要領と解説を用いた。

【付記】本研究は JSPS 科研費 21K02714;18H01037 の助成を受けた。（MORIZAWA Ryosuke, HOMMA Takako, IMAHATA Yohei, YONEDA Hiroki）